

企画展

かわら

— 瓦からみた大津史 —



■ 膳所城瓦 大津市立第三小学校蔵



■ 大津市歴史文化財 膳所 大津市蔵



■ 日吉山王祭礼図 大津市の歴史 津蔵蔵

平成20年 **10月11日(土) ~ 11月24日(月)**

開館時間：午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで）

休館日：10月14日(火)、20日(月)、27日(月)、11月4日(火)、10日(月)、17日(月)

観覧料：一般 600円(480円) 高大生 500円(400円) 小中生 200円(160円)

※()内は前売り・15名以上の団体、大津市内在住の65歳以上の方、大津市内在住の障害者の方の割引料金（証明するものをご提示ください）

★前売券は、大津市内観光案内所（大津駅・石山駅・堅田駅前）、大津市民会館、ローソンチケット（Lコード 58747）をはじめ、京阪津地区のおもなプレイガイドで9月11日より販売。

主催：大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・京都新聞社

後援： 大津放送局・NHK 大津放送局・ エフエム滋賀

協力：滋賀県瓦工事協同組合



大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御陵町 2-2 電話 077-521-2100
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>

企画展

かわら

— 瓦からみた大津史 —

平成20年 **10月11日(土) ~ 11月24日(月)**

休館日：10月14日(火)、20日(月)、27日(月)、11月4日(火)、10日(月)、17日(月)

大津の市街地も、全国の都市と同様、ビルが建ち並び、一般の民家でも瓦屋根の住宅が段々少なくなってきました。このままでは日本住宅から瓦が消えてしまう日が来るかもしれません。ましてや、葺きかえられた古い瓦は「瓦礫」となる運命です。しかし、それら「瓦礫の山」は、日本の歴史を物語る「宝の山」でもあるのです。

さて日本に瓦が伝わったのは、今からおよそ1400年前の飛鳥時代。大津にも、その頃につくられた瓦が、穴太廃寺から出土しています。以来、大津も古代寺院の造営とともに、さまざまな意匠の瓦が製作されました。江戸時代初期には、松本村（大津市松本）が瓦の一大産地として登場。またこの時代、一人の瓦師が瓦界に革命を起こします。その名は西村半兵衛。発明された瓦は「棧瓦」。古くは、丸瓦と平瓦を組み合わせた「本瓦葺」が瓦屋根の主流でしたが、半兵衛による棧瓦の発明により、庶民の住宅に、軽量で安価な棧瓦が普及したのです。

本展では、飛鳥・白鳳期から奈良・平安時代にかけて生み出された古代瓦を始め、江戸時代の松本村瓦師や西村半兵衛の銘を持つユニークな鬼瓦、猿や虎、猪などのかわいい動物をあしらった鬼瓦、さまざまな屋根の姿を描いた屏風や絵図面などを展示。皆さんを奥深い「瓦の世界」に御案内します。



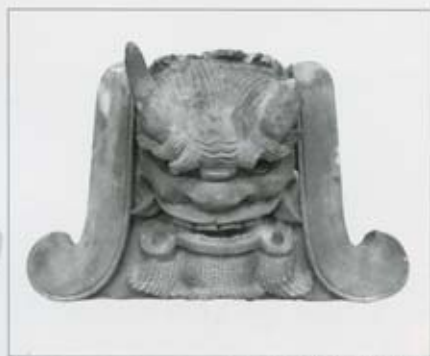
■ 大津市指定文化財 蓮華文方形軒瓦 近江神宮蔵



■ 大津市指定文化財 覆井八弁蓮華文軒丸瓦 園城寺蔵



■ 鬼瓦 猿 桃源寺蔵



■ 鬼瓦 半兵衛銘 徳義寺蔵



■ 観音寺町絵図 観音寺町自治会蔵



■ 鬼瓦 虎 桃源寺蔵

関連講座（日程、タイトルは変更する場合があります）

○10月18日(土)
記念講演会「大津の古代寺院と瓦」
森 郁夫氏（帝塚山大学教授）

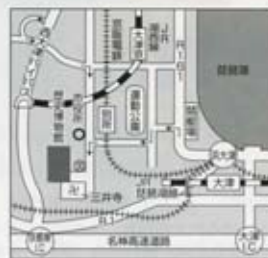
○11月1日(土)
関連イベント「古代の瓦づくり」
山本瓦工業株式会社

※事前の申し込みが必要です。
詳しくは大津市歴史博物館まで。

区分	個人	団体・前売
一般	600円	480円
高校・大学生	500円	400円
小・中学生	200円	160円

※団体は15名様以上。大津市内在住の65歳以上の方、大津市内在住の障害者の方は団体・前売料金。

☆前売券は、大津市内観光案内所（大津駅・石山駅・堅田駅前）、大津市民会館、ローソンチケット（Lコード58747）をはじめ、京阪津地区のおもなプレイガイドで販売。



【交通機関】
京阪電鉄石坂線別所駅より徒歩5分
JR湖西線大津京駅より徒歩15分
JR琵琶湖線大津朝日バス10分別所下車
無料駐車場（乗用車約70台）

大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御陵町2-2 TEL.077-521-2100
http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp